

ガラ紡で製品まで提案・木玉毛織



「企画力の木玉」で定評がある木玉毛織が、新し

い素材に挑戦している。わが国の伝統技法を生かした“ガラ紡紬”である。別名和紡糸とも言われるガラ紡は明治初期に考案された日本独自の紡績法であり、原理的には手紡ぎに最も近い、素朴な糸を引くことができる。これを現代に再現させようという試みだ。生地とともに二次製品まで展開している。

同社はもともと、高度な意匠力を駆使した高級婦人服素材に定評がある。それは各種のテキスタイルコンテストで同社企画者の作品が度々上位入賞することでも裏付けられている。社長の木全元隆さんの「尾州産地で積み重ねられてきた意匠、企画力と技術、技法を最大限引き出し、継承していくことで、尾州らしさを売りものにしたい」、「価格競争に巻き込まれない素材」、「狙いは一格上」という方針に基づく。

04～05年秋冬の主な提案素材はツイード・ストレッチ・織り編みコーディネートなどであるが、このうちツイードはトレンドがファンシーツイードに流れるなかで、産地内に価格競争が一部で見られるが、同社は糸作りからの高級ツイードに絞り込んでいる。値段で言えば1メートル3000円前後が中心である。ストレッチは有力アパレルタータンチェックブランドへ納入している。

また織り編みコーディネートは五泉のニッターとのコラボレーションで展開してい

るもので、同社が丸編みとラッセルのジャージーを提供、それを横編みと組み合わせて製品化するというプロジェクトである。例えばボトムを横編み、トップスをジャージー使いとするとか、部分使いするという具合だ。もちろんこのプロジェクトでも意匠性の高い素材での展開である。

さて、話題のガラ紡素材だが、素材は当初シルク30%・ウール70%、ウール100%の2種に限定して展開していたが、今年春夏向けに綿・ウール・シルクを開発した。実はガラ紡はもともと、綿素材に使用されていた。これでウールを紡ぐことはなかったわけだが、同社はウール用の撚子（糸になる前のまとめたタワ）を同じくガラ紡を展開している会社と共同開発して商業化にこぎ付けた。ガラ紡の凹凸感と手触りは「今までにない素朴で、新鮮な表情をかもしだした」（木全社長）という。

シルク・ウールはたて糸・よこ糸ともガラ紡生産によるシルク・ウールだが、春夏向けの綿・ウール・シルクはたて糸が綿・よこ糸がガラ紡によるシルク・ウール・綿となっている。

同社はガラ紡製品については「ガラ紡紬」「スローテキスタイル」を前面に打ち出し、生地のほか、クッション、バッグ、カバン、ベットカバー、マフラー、ワンマイルウェアなどのライフスタイル製品も自社企画し、展開を計画している。

木全さんは「自分の暮らしを大切にし、ゆったりと心豊かな時間を過ごしたいと願うライフスタイルを持った女性にこの素材を提案していく」と今後を語り、このような考え方を共有できるパートナーを求めている。